

R2 地域協働研究（ステージI）

R02-I-18 「甲子柿の生産振興と地域活性化の展開手法の研究」

課題提案者 釜石市農林課

研究代表者 総合政策学部 吉野英岐

研究チーム員 藤澤聡（釜石市産業振興部農林課）

<要旨>

本研究では、岩手県立大学総合政策学部吉野研究室と釜石市農林課が、釜石市甲子町の甲子柿の里生産組合の協力を得て、釜石市甲子地区の特産品である甲子柿や地元の農産物の生産や販路開拓について、学生のアイデアや発想を生かした新たな手法を導入するための活動を行った。研究では学生による甲子柿の生産場面の体験、販売促進のためのポスター作成ワークショップの実施、販売活動への参加を通じて、甲子柿や地元農産物の販売振興を目指した。

1 研究の概要（背景・目的等）

遠野市から釜石市に入る国道283号線沿いに開けた釜石市甲子地区の特産品として甲子柿がある。甲子柿は渋柿を1週間程度、室の中に入れ、煙で燻して渋を抜く製法により、甘味が強く、トマトのように外皮が赤色になり、リコピンなどの栄養成分も豊富な柿である。

この甲子柿の生産振興を図るため、1988（昭和63）年に、甲子柿の里生産組合が設立され、生産の安定化とブランド化が目指されてきた。しかし、近年の人口の減少や高齢化による担い手不足等により、当初80名以上いた組合員が20名程度まで減少した。そこで市外に拠点を置くNPO法人の働きかけもあり、2015（平成27）年4月に、関係者による甲子地区活性化協議会が発足し、地域資源の活用・開発、地域の特産品を活用し、観光と連携したツーリズム、都市部との交流などの取り組みを軸にすえ活動を進めてきた。さらに令和元（2019）年度より、岩手県立大学吉野英岐研究室と釜石市農林課が岩手県立大学地域協働研究に取り組み、学生の発想や手法を生かしたSNSによる情報発信の提案や、甲子柿を使ったドリンク、スムージーなどの試作を通じた甲子柿の販売の新たな展開を提案した。

今年度はこれまでの研究成果を生かしながら、盛岡市内での甲子柿の販売会や、釜石市内で新たに開催される軽トラ市に吉野研究室の学生が参加することで、これまでの地域活性化の経験と手法を生かしながら、地域の特産品である甲子柿と農産物の販売の拡大を図っていくことを目指した。



図1 釜石市および甲子地区の位置関係

2 研究の内容（方法・経過等）

①コロナ禍の影響

今年度はコロナ禍もあり、集合的な活動を行うことが困難な時期もあり、研究活動にさまざまな制約がかかった。そこで研究も下半期から本格的にスタートする形になった。また学生が参加する活動については、人数の制限や、感染予防対策の徹底を図りながら活動を行った。

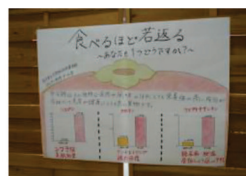
②収穫体験

10月10日（土）に甲子柿の収穫体験ツアーを実施し、2年生10名と教員が参加した。甲子柿の里生産組合の藤井修一組合長の協力のもと、学生たちは、甲子柿の歴史に関する講話の受講と収穫体験と燻製の室の見学を行った。ほとんどの学生にとって実際の甲子柿を見ることや、収穫体験は初めてであったが、丁寧な指導のもと、スムーズに収穫ができた。また、室の見学により製法への理解を深めることができた。

③販売促進用ポスターの作成

10月11日（日）に釜石市鶴住居生活応援センター会議室で、釜石市農林課の進行のもとで、学生が以下に示すような販売促進用ポスターを4種類作成した。

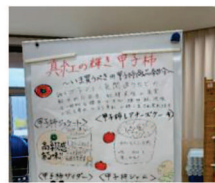
作成したポスター1



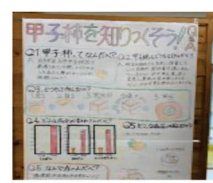
作成したポスター2



作成したポスター3



作成したポスター4



④販売促進活動への参加

10月24(土)、11月14日(土)、11月15日(日)に盛岡市菜園の「らら・いわて」で開催された甲子柿即売会、および10月25日(日)、11月22日(日)に釜石市役所前で開催された軽トラ市に学生と教員が参加した。それぞれの場で、市職員の指示のもと、学生は接客補助や受付を担当し、甲子柿や市内の農産物を求める購入者とのコミュニケーションを体験するとともに、販売会のもちかたに関する改善点の明確化や買い物客の意見を収集した。

盛岡での販売会



盛岡での販売会



軽トラ市



軽トラ市



3 これまで得られた研究の成果

盛岡市での甲子柿の販売会では、甲子柿の購入層として本人が釜石市出身であったり、周囲の釜石市出身者に依頼されて購入しているケースが多く、甲子柿に「ふるさと」を感じて購入していることが明らかになった。また、連続した2日間の開催では、2日目の集客数が落ちることから、開催日のインターバルの見直しや、購入日による商品構成の差異化などの工夫が必要であることも指摘できる。さらに、出品する甲子柿の品質の統一や作成したポスターの掲示方法などPRの仕方についても、今後のさらなる工夫が必要である。

また、軽トラ市については、参加した学生による今後の改善につながる意見や提言内容を以下に抜粋して紹介する。

- (1) お客さんとの会話では、もうちょっと遅い時間から始めてほしいといったイベントへの要望などがあつた。もうちょっと遅い時間から始めていると、後から来た人も楽しめたのではないと思う。
- (2) 開催されてすぐの時間帯はお客様のご来店が多かったが、徐々に減っていった。来年は開催頻度を増やしてほしいといったお客様もいた。
- (3) 軽トラ市を事前に知っている人しか来られないような場所だったので、通りすがりの人でも入りやすそうな場所で行う(人通りが多いところ)。
- (4) アルコール除菌をジェルではなくスプレーに変える(手がベタベタするから要らないというお客様がいたため)。
- (5) 買ったらすぐ帰るお客様が多かったので、座れるよう

な場所を作る(コーヒーを販売しているお店があつたので、そのお店に協力してもらって飲食スペースをつくるなど)。

(6) 検温器の調子が悪いのか、風が強いせいかわからないが、33度と表示されて「そんなわけない!」と驚いている人が多く、受付ではほぼその会話しかしていない気がする。

(7) スタンプラリーの手伝いでは、「次はいつ(軽トラ市を)やるの?」と聞かれたり、「もっと(軽トラ市を)やってほしいなあ」と言う人がいた。いつ行われるかわかりやすいように、不定期開催ではなく、第2日曜日などと定期的に行えたら良いと思った。

(8) 朝早すぎると家事で忙しいため行けないと言っていた買い物客がいた。

今後はこうした情報をもとに、より利用しやすい販売環境を作り、販売の促進につなげていくことが求められる。いずれのイベントでも、買い物客が気軽に学生に話しかける光景がみられ、また学生も地域の特産物について買い物客の感想を聞くことができるなど、若い年齢層の学生がスタッフ補助者として参加することの利点も確認できた。

4 今後の具体的な展開

甲子柿は令和3年3月に農林水産省に申請していたGI登録(地理的表示)が認められた。農水省によればGI保護制度とは、「伝統的な生産方法や気候・風土・土壌などの生産地等の特性が、品質等の特性に結びついている製品の名称(地理的表示)を知的財産として登録し、保護する制度」で、「生産業者の利益の保護を図ると同時に、農林水産業や関連産業の発展、需要者の利益を図る」ものである。甲子柿がGI登録されたことで、今後の甲子柿の生産販売にはずみがつくとともに、今後は品質の均質化と安定供給にむけた一層の取り組みやその効果の検証が必要になる。

例えば甲子柿の収穫後に一定期間、室と呼ばれる施設で柿を燻製する製法は、これまでは各生産者のそれぞれのやり方に基づいて行われてきた。今後は品質の安定のために専門機関による科学的なデータの収集や分析を導入し、生産者が製法についての情報を広く共有できる体制を構築することが必要である。

販売促進については、甲子柿の販売会や軽トラ市で収集した購入層の意見を取り入れて、新たな展開をすることが求められる。釜石市役所では軽トラ市の開催日の拡充や開催時間の見直しに着手しており、令和3年度の開催に向けた準備が進んでいる。今後は引き続き、購入者層の意見を収集し、より利用しやすい環境の構築が求められる。

5 その他(参考文献・謝辞等)

研究活動全般を通じてご協力いただいた甲子柿の里生産組合や関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。また複数回にわたって現地を訪問し、体験交流会や軽トラ市に参加し、盛岡市での甲子柿販売会にも参加した岩手県立大学総合政策学部の学生にも改めて感謝します。